

月例経済報告

平成3年8月27日 経済企画庁

目次

概観

- 1国内需要:個人消費は堅調に推移
- 2生産雇用:在庫は増加傾向
- 3国際収支:輸入は緩やかに増加
- 4物 価:国内卸売物価は落ち着いた動き
- 5金融財政:長短金利は低下
- 6海外経済:ドイツ、政策金利引上げ

概観

我が国経済:国内需要は堅調な動きを示している。個人消費は堅調に推移している。設備投資は、先行き鈍化の兆しがみられるものの、投資意欲も根強く、増勢を続けている。また、住宅建設は貸家を中心として減少傾向にある。

鉱工業生産は4～6月期に前期比0.7%減となるなどこのところ一進一退で推移している。企業収益は、一部の業種で減益となっているものの、全体としては高い水準にある。企業の業況判断も、総じて緩やかに低下してきたものの、好感がなお高い水準にある。

雇用情勢をみると、雇用者数は、6月には前年同月比3.8%増となり、堅調に増加している。労働力需給は引締まり基調が続いており、企業の人手不足感の高い水準が続いている。

輸出は一進一退で推移している。輸入は製品類等を中心に緩やかに増加している。国際収支をみると、経常収支の黒字幅は縮小テンポに鈍化がみられ、このところ一進一退で推移している。対米ドル円相場(インターバンク直物中心相場)は、7月央以降一進一退で推移した。8月に入っては、上旬に強含み、その後おおむね136円台で推移したが、下旬にかけてソ連の政情の動向により一時的に下落した後反発した。

物価の動向をみると、国内卸売物価は、落ち着いた動きとなっている。また、消費者物価は、基調として安定した動きとなっている。

最近の金融情勢をみると、7月は、短期金利は月初に低下した後、おおむね横ばいで推移し、下旬にはやや低下した。長期金利は月初にやや低下した後、おおむね横ばいで推移し、下旬にはやや低下した。株式相場は上旬に下落した後、月央にかけて値を戻し、その後一進一退の動きとなった。8月に入っては、短期金利は横ばいで推移した後、月央以降弱含んだ。長期金利は月央にかけてやや低下し、ソ連の政情の動向を受けて一時上昇した後低下した。株式相場は月央にかけて下落し、ソ連の政情の動向を受けて一時大幅に下落した後値戻した。7月(速報)のマネーサプライは、前年同月比3.4%増となった。

海外経済:アメリカ経済は、景気の改善を示す指標が増えてきており、緩やかな景気回復の様相が現れてきている。実質GNIは4～6月期(暫定値)前期比年率0.4%増とわずかながらプラス成長となった。鉱工業生産は7月は前月比0.5%増となった。雇用者数は5月に大幅増となるなど回復の兆しがみられるものの、このところ小幅減が続いている。物価は総じて安定した動きとなっ

ている。貿易収支赤字は大幅に縮小しており、4～6月期は133億ドルとなった。金融面では、長期金利は7月下旬以降下落している。短期金利は7月中におおむね横ばいで推移した後、8月に入ってから弱含みとなったが、ソ連の政情の動向により一時低下した後反発した。

西欧経済をみると、ドイツ(西独地域)では景気は拡大しているものの、このところ減速の兆しがみられる。一方、イギリスでは景気後退、フランス、イタリアでは景気の減速を示している。雇用情勢をみると、ECの失業者数は高い水準で推移している。物価は、イタリアでは高い上昇率が続き、イギリスでは上昇率は依然高水準にあるものの低下傾向にある。ドイツではこのところやや高まりがみられ、フランスでは落ち着いている。ドイツでは政策金利が引き上げられた。

国際通貨市場をみると、米ドル(実効相場)は、7月半以降弱含み、8月上旬に下落した後、おおむね横ばいで推移していたが、ソ連の政情の動向により一時上昇した後反落した。

国際商品市況は、6月末に軟化の後、7月は穀物等の上昇があったもののほぼ横ばいで推移した。

石油情勢をみると、スポット価格(北海ブレント)は、6月中旬から7月中旬にかけて強含んだ後、小幅な変動となったが、ソ連の政情の動向により一時上昇した後反落した。

*

*

*

以上、我が国経済は、国内需要が堅調に推移し、企業収益は高い水準にあり、雇用者数が堅調に増加するなど、拡大局面にある。政府は、内需を中心とした経済の持続的拡大を図るため、内外の経済動向を注視し、引き続き適切かつ機動的な経済運営に努めることとする。

1 国内需要:個人消費は堅調に推移

個人消費は、堅調に推移している。

家計調査でみると、実質消費支出(全世帯)は前年同月比で5月0.6%増の後、6月は5.0%増(前月比4.9%増)となった。世帯別の動きをみると、勤労者世帯で前年同月比5.5%増、一般世帯では同4.0%増となった。最近数か月の動きを費目別にみると、住居、家具・家事用品等が増加している。また、農家世帯(農家経済調査)の実質現金消費支出は前年同月比で5月3.7%減となった。小売売上面からみると、全国百貨店販売額は、前年同月比で5月5.0%増の後、6月は7.3%増となった。また、チェーンストア売上高(店舗調整後)は前年同月比で5月6.3%増の後、6月は8.0%増となった。一方、耐久消費財の販売をみると、乗用車(軽を含む)の新車新規登録・届出台数は、前年同月比で7月(速報)は5.7%減となった。レジャー面を大手旅行業者12社取扱金額でみると、6月は前年同月比で国内旅行が3.1%増、海外旅行は9.7%減となった。

賃金の動向を毎月勤労統計でみると、現金給与総額は、事業所規模30人以上では前年同月比で5月3.9%増の後、6月は3.7%増(事業所規模5人以上では4.9%増)となった。また、実質賃金は前年同月比で5月0.3%増の後、6月は0.1%増(事業所規模5人以上では1.0%増)となった。

住宅建設は、貸家を中心として、減少傾向にある。

新設住宅着工をみると、総戸数(季節調整値)は、前月比で5月3.2%増の後、6月は貸家等の減少により1.9%減(前年同月比21.6%減)の11万6千戸(年率139万戸)となった。4～6月期は前期比7.9%減(前年同期比20.9%減)となった。6月の着工床面積(季節調整値)は、前月比0.5%減(前年同月比16.7%減)となった。6月の戸数の動きを資金別にみると、民間資金住宅は前月比1.0%減(前年同月比24.3%減)、公的資金住宅は同4.0%減(同15.6%減)となった。

設備投資は、先行き鈍化の兆しがみられるものの、投資意欲も根強く、増勢を続けている。企業

規模別・産業別にみると、中小非製造業はやや鈍化しているものの、その他は総じて堅調に増加している。企業規模別・産業別にみると、中小非製造業はやや鈍化しているものの、その他は総じて堅調に増加している。

当庁「法人企業動向調査」(6月調査)により設備投資の動向をみると、全産業の設備投資は、前期比で3年1~3月期(実績)1.0%増(うち製造業2.7%増、非製造業0.8%減)の後、4~6月期(実績見込み)は3.8%増(同6.7%増、同1.9%増)となっている。

また、7~9月期(修正計画)は、前期比で1.7%増(うち製造業6.7%増、非製造業0.7%減)、10~12月期(計画)は0.7%増(同0.7%増、同1.9%増)となっている。なお、年計画では、前年比で2年(実績)15.4%増(うち製造業17.8%増、非製造業13.8%増)の後、3年は7.1%増(同10.6%増、同4.7%増)となっている。

先行指標の動きをみると、機械受注(船舶・電力を除く民需)は、前月比で5月3.0%増(前年同月比3.0%増)の後、6月は17.0%減(同2.7%減)となった。なお、当庁「機械受注調査(見通し)」によれば、機械受注(船舶・電力を除く民需)は、7~9月期は前期比6.7%増(前年同期比4.5%減)となる見通しとなっている。民間からの建設工事受注額(50社、非住宅)をみると、前月比で5月2.3%減の後、6月は3.5%減(前年同月比12.5%減)となったが、引き続き高い水準で推移している。内訳をみると、製造業は前月比3.7%減(前年同月比0.7%減)、非製造業は同2.1%増(同15.5%減)となった。4~6月期は前期比13.3%減(前年同期比0.2%増)となった。

公共工事について着工総工事費をみると、前年同月比で5月34.6%増の後、6月は市区町村、公団・事業団等の増加により21.7%増となった。

2 生産雇用:在庫は増加傾向

鉦工業生産・出荷・在庫の動向をみると、生産、出荷はこのところ一進一退で推移している。また、在庫は増加傾向にある。

鉦工業生産は、前月比で5月2.0%増の後、6月はパルプ・紙・紙加工品、化学が増加したものの、電気機械、輸送機械等が減少したことから、2.8%減となった。4~6月期では前期比0.7%減となった。また、製造工業生産予測指数は、前月比で7月は機械、化学等により5.1%増の後、8月は機械、非鉄金属等により0.1%減となっている。

鉦工業出荷は、前月比で5月3.0%増の後、6月は資本財が増加したものの、生産財、耐久消費財等が減少したことから、1.5%減となった。鉦工業生産者製品在庫は、前月比で5月1.4%増の後、6月は電気機械、輸送機械等が減少したものの、化学、鉄鋼等が増加したことから、0.1%増となった。また、6月の鉦工業生産者製品在庫率指数は101.8と前月を4.7ポイント上回った。

主な業種について最近の動きをみると、電気機械では、生産は基調としては増加傾向にあり、在庫は増加傾向にある。輸送機械では、生産は一進一退で推移しており、在庫は増加傾向にある。化学では、生産は引き続き高水準で推移しており、在庫は増加傾向にある。

雇用情勢をみると、雇用者数は堅調に増加している。労働力需給は引締まり基調が続いており、企業の人手不足感の高い水準が続いている。

新規求人倍率(季節調整値)は5月2.12倍の後、6月2.09倍、有効求人倍率(同)は5月1.44倍の後、6月1.43倍と、労働力需給は引締まり基調が続いている。また、6月の完全失業者数(季節調整値)は前月差6万人増の138万人、完全失業率(同)は2.1%(前月2.0%)となった。雇用者数は、6月はサービス業、卸売・小売業、飲食店を中心に前年同月比3.8%増(前年同月差187万人増)となった。所定外労働時間(製造業)は、事業所規模30人以上では前年同月比で5月8.7%減の後、6月8.0%減(事業所規模5人以上では7.3%減)と、減少傾向にある。

日本銀行「企業短期経済観測」により、全国企業の雇用判断をみると、各業種、規模にわたり人手不足感は高い水準が続いている。

企業の動向をみると、企業収益は、一部の業種で減益となっているものの、全体としては高い水準にある。また、企業の業況判断も、総じて緩やかに低下してきたものの、良好感がなお高い水準にある。

大企業の動向を前記「法人企業動向調査」でみると、企業経営者の景気見通しは、慎重なものとなっているが、売上高、経常利益は引き続き堅調に推移すると見込まれている。

また、中小企業の動向を、中小企業金融公庫「中小企業動向調査」(6月調査)でみると、業況判断は「好転」が「悪化」を、売上高判断は「増力」が「減少」を上回って推移しているが、その超過幅は縮小している。なお利益率判断は「低下」超となっている。

企業倒産の状況を銀行取引停止処分者件数でみると、7月は757件で前年同月比82.0%増と、このところ増加が続いているものの件数は依然として低い水準にある。

3 国際収支:輸入は緩やかに増加

輸出は、一進一退で推移している。

通関輸出(数量ベース)は、前月比で6月に3.4%減の後、7月(速報)は2.2%増(前年同月比3.0%増)となった。これを品目別(ドルベース)にみると、自動車、一般機械等が増加している。同じく地域別にみると、東南アジア、中近東向け等が増加している。

輸入は、製品類等を中心に緩やかに増加している。

通関輸入(数量ベース)は、前月比で6月に9.0%減の後、7月(速報)は8.7%増(前年同月比4.9%増)となった。最近数か月の動きを品目別(ドルベース)にみると、原料品、製品類が増加している。同じく地域別にみると、東南アジア、中国等からの輸入が増加している。原油輸入価格(CIFベース)は、7月は1バーレル当たり18.0ドルと前月比横ばいとなった。

国際収支をみると、経常収支の黒字幅は縮小テンポに鈍化がみられ、このところ一進一退で推移している。6月(速報)の経常収支(季節調整値)は、貿易収支の黒字幅が拡大したものの、貿易外収支の赤字幅が大幅に拡大したため、その黒字幅は縮小し7,719億円(51.4億ドル)となった。長期資本収支をみると、外国資本の流入超過幅が大幅に拡大し、本邦資本の流出超過幅がやや縮小したため、全体では流出超過幅が大幅に縮小し、466億円(3.3億ドル)の流出超過となった。短期の資本取引の合計(短期資本収支と符号を転じた金融勘定の合計)は、5,393億円(38.6億ドル)の流出超過となった。

6月末の外貨準備高は、前月比3.7億ドル減少して675.2億ドルとなった。

外国為替市場における対米ドル円相場(インターバンク直物中心相場)は、7月央以降一進一退で推移した。8月に入っては、上旬に強含み、その後おおむね136円台で推移したが、下旬にかけてソ連の政情の動向により一時的に下落した後、反発した。一方、対マルク相場(対顧客電信売相場)は、7月央から下旬にかけて弱含み、8月に入ってはおおむね80円前後で推移したが、ソ連の政情の動向により一時的に上昇した後下落した。

4 物価:国内卸売物価は落ち着いた動き

国内卸売物価は、落ち着いた動きとなっている。

7月の国内卸売物価は、電力の夏季料金の適用といった季節要因に加え、鉄鋼(厚板)等が上昇したものの、石油・石炭製品(C重油)等が下落したことから、前月比保合い(前年同月比1.7%の上昇)となった。また、輸出物価は、契約通貨ベースでは保合いとなつたものの円高から、前月比0.6%の下落(前年同月比4.2%の下落)となった。

輸入物価は、契約通貨ベースでの下落に加え、円高から前月比2.1%の下落(前年同月比5.7%の下落)となった。この結果、総合卸売物価は、前月比0.2%の下落(前年同月比0.4%の上昇)となった。なお、企業向けサービス価格は、4～6月期に前期比1.4%の上昇(前年同期比3.4%の上昇)となった。

商品市況(月末対比)は、食品等が上昇したものの、非鉄等の下落により7月は下落した。7月の動きを品目別にみると、大豆等は上昇したものの、鉛地金等が下落した。

消費者物価は、基調として安定した動きとなっている。

6月の全国指数は、野菜・海草等の下落から前月比0.4%の下落(前年同月比3.6%の上昇)となった。なお、生鮮食品を除く総合(季節調整値)は、前月比0.2%の上昇(前年同月比3.2%の上昇)となった。

7月の動きを東京都区部速報でみると、野菜・海草等の上昇から前月比0.2%の上昇(前年同月比3.7%の上昇)となった。なお、生鮮食品を除く総合(季節調整値)は、前月比で0.4%の上昇(前年同月比3.1%の上昇)となった。

5 金融財政:長短金利は低下

最近の金融情勢をみると、7月は、短期金利は月初に低下した後、おおむね横ばいで推移し、下旬にはやや低下した。長期金利は月初にやや低下した後、おおむね横ばいで推移し、下旬にはやや低下した。株式相場は上旬に下落した後、月央にかけて値を戻し、その後一進一退の動きとなった。8月に入っては、短期金利は横ばいで推移した後、月央以降弱含んだ。長期金利は月央にかけてやや低下し、ソ連の政情の動向を受けて一時上昇した後低下した。株式相場は、月央にかけて下落し、ソ連の政情の動向を受けて一時大幅に下落した後値戻した。7月(速報)のマネーサプライは、前年同月比3.4%増となった。

短期金融市場をみると、7月の短期金利は、月初に低下した後、おおむね横ばいで推移し、下旬には市場における資金需給のきつめ感の後退等からやや低下した。この結果、7月末のコールレート(無担保、翌日物)は7.5000%(6月末8.09375%)、CD新規発行レート(90日以上120日未満、最終週約定平均)は7.44%(同7.79%)となった。8月に入っては横ばいで推移した後、月央以降弱含んだ。

公社債市場をみると、7月の国債流通利回りは、月初にやや低下した後、おおむね横ばいで推移し、下旬には金利先安感等からやや低下した。この結果、7月末の国債流通利回り(指標銘柄)は6.580%(6月末6.855%)となった。8月に入っては、月央にかけてやや低下し、ソ連の政情の動向を受けて一時上昇した後低下した。

6月の全国銀行の貸出約定平均金利は、短期は0.093%低下し、長期は0.004%低下した。また、総合では前月比で0.024%低下し7.609%となった。

長期信用銀行等は8月1日に長期プライムレートを0.2%引き下げ、7.7%とした。

マネーサプライ(M₂+CD)の月中平均残高を前年同月比でみると、6月3.7%増の後、7月(速報)は3.4%増と伸びを低めた。これは、貸出の伸び率が低下したほか、マネー対象外金融資産へのシフトがみられたことによる。

なお、日銀券の月中平均発行残高は、前年同月比で6月2.8%増の後、7月は2.1%増となった。

企業金融の動向をみると、設備資金需要にはやや鈍化がみられるものの、運転資金需要は総じて堅調に推移している。

株式市場では、7月の相場は、先行き不透明感から上旬に下落した後、月央にかけて値を戻し、その後一進一退の動きとなった。この結果、7月末の東証株価指数は1,859.12(-6月末1,819.01)となった。8月に入っては、月央にかけて下落し、ソ連の政情の動向を受けて一時大幅に下落した後値戻した。

6 海外経済:ドイツ、政策金利引上げ

アメリカ経済は、景気の改善を示す指標が増えてきており、緩やかな景気回復の様相が現れてきている。実質GNPは、91年1~3月期前期比年率2.8%減の後、4~6月期(暫定値)は同0.4%増とわずかながらプラス成長となった。

実質個人消費は1~3月期前期比年率1.5%減の後、4~6月期は同3.6%増となった。乗用車販売台数は、7月910万台(季調値年率)と低水準であるものの回復している。実質民間住宅投資は1~3月期前期比年率25.3%減の後、4~6月期は同3.7%増となった。

住宅着工件数は、4~6月期前期比9.0%増(季調値年率99.7万戸)の後、7月は前月比3.7%増(同107.0万戸)と回復している。実質民間設備投資は1~3月期前期比年率16.3%減の後、4~6月期は同2.3%減と減少幅が小幅となった。製造業稼働率は、4~6月期77.8%の後、7月78.4%と4月以降耐久財を中心に緩やかに上昇している。非軍需資本財受注は、5月前月比2.5%減(前年同月比12.1%減)の後、6月は同4.7%増(同9.7%減)となった。実質在庫は、取り崩しが続いているが、4~6月期は製造業、卸売業では減少幅が拡大したものの、小売業で減少幅が小幅となったことから、実質在庫投資の実質GNP成長率への寄与度(前期比年率)はプラス0.4%となった。対外面をみると、4~6月期には、実質輸出等が前期比年率3.7%増となったものの、実質輸入等が同21.2%増の大幅増となったことから、純輸出の実質GNP成長率への寄与度(前期比年率)はマイナス2.5%となった。

鉱工業生産は、耐久財を中心に4月以降増加を続けており、4~6月期前期比0.5%増(前年同期比2.8%減)の後、7月前月比0.5%増(前年同月比2.5%減)となった。

雇用情勢をみると、雇用者数は5月に大幅増となるなど回復の兆しがみられるものの、このところ小幅減が続いている。失業率(軍人を除く)は、6月7.0%の後、7月6.8%とやや低下した。

物価は、総じて安定した動きとなっている。生産者価格(完成財)は、4~6月期前期比0.2%の低下(前年同期比3.3%の上昇)の後、7月は食料、エネルギー価格が下落したほか、その他の財でも総じて落ち着いた動きとなったことから、前月比0.2%の低下(前年同月比2.9%の上昇)となった。食料・エネルギーを除く生産者価格は、4~6月期前期比0.5%の上昇(前年同期比3.5%の上昇)の後、7月は前月比0.2%の上昇(前年同月比3.3%の上昇)となった。消費者物価は、4~6月期前期比0.5%の上昇(前年同期比4.8%の上昇)の後、7月は前月比0.2%の上昇(前年同月比4.4%の上昇)と安定している。食料・エネルギーを除く消費者物価は、4~6月期前期比0.8%の上昇(前年同期比5.1%の上昇)の後、7月は前月比0.4%の上昇(前年同月比4.8%の上昇)となった。

貿易動向をみると、通関ベースでみた貿易収支赤字(季節調整値)は大幅に縮小しており、1~3月期169億ドル(対GNP比1.2%)の後、4~6月期は輸入がやや増加したものの、輸出で資本財及び自動車・同部品が大幅に増加したことから133億ドル(同0.9%)となった。

金融面をみると、長期金利は7月中旬にかけておおむね横ばいで推移したが、下旬以降の景気指標の発表を受けて市場に景気回復の足取りは重いとの見方が広がったことからその後は下落

している。短期金利は、7月中おおむね横ばいで推移した後、8月に入ってから弱含みとなったが、ソ連の政情の動向により一時低下した後反発した。7月のマネーサプライ増加率は、M2は90年10～12月期比年率2.8%、M3は同1.4%とともに目標圏(M2:2.5～6.5%、M3:1.0～5.0%)内で推移した。

財政面をみると、6月の連邦財政収支は24.6億ドルの赤字(前年同月111.1億ドルの赤字)となった。また、91年度の9か月の累計では1,774.6億ドルの赤字となり、前年同期(1,625.9億ドルの赤字)を上回っている。

西欧経済をみると、ドイツ(西独地域。以下同様)では、景気は拡大しているものの、このところ減速の兆しがみられる。一方、イギリスでは景気後退、フランス、イタリアでは景気の減速を示している。鉱工業生産は、ドイツでは基調として4堅調であるが、このところ伸び悩みもみられフランスでは減少傾向に歯止めがかかりつつある。イタリア、イギリスでは引き続き減少している。主要4大国の鉱工業生産(当庁試算)は、1～3月期前期比0.9%増(前年同期比0.8%増)の後、4～5月は前2か月比1.0%減(前年同期比0.4%減)となった。

EC12か国の失業者数は高い水準で推移しており(4月1,465万人、失業率(季節調整値)5月8.7%)、雇用情勢は依然として厳しい。物価は、イタリアでは高い上昇率が続き、イギリスでは上昇率は依然高水準にあるものの低下傾向にある。ドイツではこのところやや高まりがみられ、フランスでは落ち着いている。EC12か国の消費者物価は、90年10月以降上昇率は低下し、4月前年同月比5.0%の上昇の後、5月は同4.9%の上昇となっている。貿易収支は、ドイツ全体では統一以降黒字が大幅に縮小し、5月には赤字となった。一方、フランス、イギリスでは赤字の縮小傾向がみられる。イタリアでは赤字が続いている。なお、ドイツ全体の経常収支は、1月以降6か月連続赤字となった。ドイツでは、8月15日政策金利の引上げが決定された。

韓国経済は、内需の好調と輸出の回復から経済は拡大を続けている。失業率はサービス部門の好調等から低下している。物価は高い上昇率が続いているものの、鎮静化の兆しがみられる。貿易収支は大幅な赤字となっている。

国際通貨市場をみると、米ドル(実効相場)は、7月半以降弱含み、8月上旬に下落した後、おおむね横ばいで推移していたが、ソ連の政情の動向により一時上昇した後反落した。

国際商品市況は、6月末に軟化の後、7月は穀物等の上昇があったもののほぼ横ばいで推移した。

石油情勢をみると、スポット価格(北海ブレント)は、6月中旬から7月中旬にかけて強含んだ後、小幅な変動となったが、ソ連の政情の動向により一時上昇した後反落した。OPECの原油生産量は7月にやや減少した。